



和風アイスの先駆者 愛され続ける「あいすまんじゅう」



アイスで和菓子の おいしさを徹底追求

ロングセラー「あいすまんじゅう」
梅鉢の形をしたアイススクリームの中に、甘く香ばしいあんこがたっぷり入った「あいすまんじゅう」。昭和37年に発売開始されて以来のロングセラー商品です。そんな「あいすまんじゅう」をはじめ、「白くまや」「きなこもも」などを製造販売している和風アイスの先駆者丸永製菓株式会社。

「あいすまんじゅう」ヒットの理由のひとつは、クリーム製造販売に着手したのですが、アイススクリーム製造業としては当時すでに後発でした。この話すのは、永洲取締役です。しかしながら、「あいすまんじゅう」の大ヒットを機に、九州から全国へと販路を拡大。その背景には、品質の高さが認められ、大手商社や全国展開のコンビニエンスストアとの取引が始まったことがありました。

大手が取り組まない商品開発を

丸永製菓株式会社は、和菓子として楽しめるおいしさです。前身が和菓子店であり、凍らせてもあんこが柔らかいこと、それを包むアイススクリームも柔らかいところに秘訣があります。当社の商品開発は、あんこやお餅をアイスとして、どうおいしく食べられるかが先。アイススクリームメーカーとは逆の発想です。永洲取締役は、製造には手間がかかりますが、「だからこそ、大手が取り組みにくい。そんな商品開発が当社の得意とするところです。」

原料や製法の見直しは適宜行っています。時代に合わせて配合を調整したり工程を変えたりします。「お客様が求めるおいしさを変えない」ための変化です。



設立 昭和8(1933)年
資本金 1,488万円
本社所在地 久留米市東櫛原町182-1
代表取締役社長 永洲 俊毅
従業員数 145名
事業内容 アイススクリーム製造・販売
受賞歴等 平成29年経済産業省「地域未来牽引企業」
[MONDE SELECTION 2017] (金賞) 他

公式サイトはこちら！



「ごま焼酎」のパイオニア

設立 昭和53(1978)年
資本金 7,000万円
本社所在地 久留米市田主丸町益生田214-2
代表取締役 川原 武浩 取締役社長 吉村 拓二
従業員数 43名
事業内容 本格焼酎・リキュールの製造・販売
受賞歴等 平成29年「福岡国税局酒類鑑評会」(金賞)
平成29年「福岡県酒類鑑評会」(福岡県知事賞)
平成30年「福岡国税局酒類鑑評会」(金賞) 他

公式サイトはこちら！



貯蔵・ブレンドに 高評価「ごま焼酎 紅乙女」

長期熟成・三次仕込みで製造

株式会社紅乙女酒造のルーツは、元禄12年に創業された若竹屋酒造場に遡ります。それからおよそ280年後、12代目田村社長夫妻の妻、香野氏が、これまでにない新しい焼酎を開発したことが会社設立のきっかけとなりました。これまでにない新しい焼酎とは、「赤水のような上品な香りを持ち、洋酒のように本洋においしいお酒。水を加えることで、焼酎独特の臭みを消した「ごま焼酎」

です。紅乙女酒造は、もろみに「ごま」を加える三次仕込みという独自の製法を生み出しました。出来あがったお酒はすぐに蒸化せず、貯蔵・熟成後、ブレンドを行います。手間暇がかかりますが、この一工程を惜しまず独自の製法を守り今日に至ります。発売当時、新たな販路を自指して、創業者自らの東京にごま焼酎を持参して売り歩き、その舌が実を結び、現在では関東から東北まで販路が拡大、あつと言つ間に全国の焼酎ファンに知られるようになった。なかでもJR九州

州の業務用アルコールライン「なつ星 in九州」のタイミングカーで提供された「ごま焼酎 紅乙女」ゴールド36度は大きな話題を呼びました。平成29年、M&Aにより、明太子大正「ふくや」の100%を本社に。食品メーカーの新たな視点加わることによって生産設備の効率化、生産性の向上を実現しました。

新開発の黒い甘酒に注目集まる

近年の甘酒ブームもあり、甘酒の出荷も好調。黒ごまを使ったオリジナル商品「黒い甘酒」が大ヒットとなりました。展示会等に「黒い甘酒」を出展すると見目のインパクトで注目を集め、しかも試飲してみても驚かす味と、このことで、好評を得ています。紅乙女酒造では、新たな試みにチャレンジし、自社開発製品の販路拡大に取り組みしています。



紅乙女ゴールド



伝統を守り、革新し続ける 世界に羽ばたく老舗蔵元

設立 元禄12年(1699)年
 資本金 1,000万円
 本社所在地 久留米市田主丸町田主丸706
 代表者 14代目 林田 浩暢
 従業員数 20人
 事業内容 清酒、甘酒、リキュールの製造・販売
 受賞歴等 平成29年「福岡国税局酒類鑑評会」(吟醸の部 金賞)
 平成30年「福岡国税局酒類鑑評会」(純米の部 金賞)
 平成30年「福岡県酒類鑑評会」(大吟醸の部金賞)

公式サイトはこちら!



「子孫より預かりしもの」 300年の酒造りを次世代へ

酒造りに恵まれた土地・田主丸
 合資会社若竹屋酒造場の創業は、元禄12年、300年を超える歴史を持つ蔵元です。酒造りには豊かな水を育む山、稲作が盛んな肥沃な土地、そして水運をはじめとした輸送手段があることが必要。創業地である田主丸には、巨瀬連山、筑後平野、そして筑後川という恵まれた環境があります。14代目林田社長は、使用する酒米は、そのほとんどが田主丸の生産者による契約栽培です。

日本酒の復活も新酵母の開発も
 家訓は「若竹屋は先相より受け継ぎし商いにあらず。子孫より預かりしものなり。酒造りを次世代へつなげる取り組みにも余念がありません。」
 発酵工学分野で博士号を持っていた前社長の研究成果の一つが「博多純酒」。現在の日本酒の原形ともいわれるが、製造技法が失われていたこの日本酒を復活させ販売を始めました。また、元禄期の製造法を再現した「醸部元禄之酒」や、

日本で最初に分離培養された酒酵母を使用した「Debut」なども開発。福岡県工業技術センター「生物食品研究所」との共同開発で誕生した吟醸酒用新酵母は、現在各地の蔵元で使われています。
 日本酒は、味が決めます。造り方は300年前から変わらない。現代の科学的知見から見ても精密で合理的な製法です。しかし、300年の伝統を守るには、自己革新も不可欠です。林田社長。
 近年はヨーロッパ市場にも進出。現地の三ツ星レストランでも取り扱われるなど、若竹屋酒造場の日本酒は世界へと羽ばたいています。



「人を泣かすな 朝日より夕日を拝め」
 転機となったペットライフ事業
 株式会社森光商店の歴史は、明治10年から続く老舗米穀問屋森光七商店にまで遡ります。昭和初期まで、造り酒屋・炭鉱の食糧が主な販売先でしたが、競争で米穀の取り扱いが休止。これを機に取り扱い商品を増やしていき、社内のターニングポイントとなったのが、ペットフード事業に参入したこと。熊本市に開業したホーセンターの依頼から始まったのですが、ペット関連ビジネスの発光から

徹底した安全・品質・衛生管理
 あっただけでなく、マーケットインの思想「ウハウハが身に付き、その後の企業発展に結びつきました。現在は米穀事業、精米加工・販売、食料事業(大豆、小麦粉、小豆等の加工・販売)、ペットライフ事業(ペットフード、用品)の販売が3本柱。とくに、高齢化核家族化の影響によるペット市場の拡大が続く、ペットライフ事業は大きく成長しました。

産地や品質に徹底的にこだわる森光商店「米の鮮度」にこだわり、完全受注精米システムを導入。受注のみを玄米から白米に精米して提供しています。また、すべての商品に精米日、精米時間、精米担当者を表示するトレーサビリティシステムを導入することで、お客様からの信頼、信用を確めています。
 ペットライフ事業では広域物流センターを整備し、最新の在庫管理システムを導入。すべての商品に対して100%のスクリーン検品を行うことで、正確・安心・安全な納品体制を実現しています。
 商品への厳しいこだわり。一方で、人に対して温かいまなざしを向ける森光商店。社訓は、人を泣かすな。朝日よりも夕日を拝め。信用を大切に。相手が困っている時ほど最後まで寄り添うのが同社のモットーです。



明治10年創業の老舗問屋 米穀・食料・ペットライフの3事業で発展



設立 昭和29(1954)年
 資本金 3,000万円
 本社所在地 佐賀県杵臼藤木町字若桜9-7(商工団地内)
 久留米事業所 久留米市城南町5番地の30
 代表者 取締役社長 森光 栄一
 従業員数 280名
 事業内容 米麦等の加工・販売、穀類・飼料・肥料等の製造・加工・販売
 受賞歴等 平成29年経済産業省「地域未来牽引企業」

公式サイトはこちら!





暮らしや環境の安全を守る
微生物のエキスパート



本物づくりで 健やかづくりへ貢献

設立 昭和62(1987)年
資本金 5,000万円
本社所在地 久留米市百年公園1-1 福岡バイオンキュー
ーションセンター104
代表取締役 波多野 稔文
従業員数 78名
事業内容 飼料用微生物製剤、不快害虫駆除剤の開発、製造、販売
受賞歴等 平成17年「愛・地球博」(愛・地球賞)

公式サイトは
こちら!



自然界にある微生物の 力を活かした商品

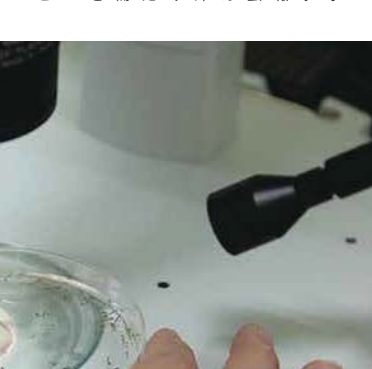
昭和62年創業の株式会社九州メディカル。調剤薬局の展開や微生物技術を、一歩とした製品の開発、販売を行う会社です。地域に根ざすのが薬局事業に対して、バイオ事業は世界市場への展開を見据えています。

バイオ事業は自然界にある微生物を抽出し、性状解析、培養生産、市場ニーズに合わせた微生物を、自社で一貫して選抜、製品化しています。微生物のラ

イナリーストックは、何と四千株以上、同社の強みの一つです。

環境に優しい害虫駆除剤も

現在、飼料用製品、生育促進や悪臭低減に効果や、保健衛生用製品、不快害虫の駆除に効果を製造。近年、食の安全・安心は、世界的な関心事。生体への影響を考慮し、家畜などに投与する成長促進抗生物質を禁止する動きも出ています。同社の製品は元々自然界に存在する微生物の力を活かしたものであり、安全性の高さが強み。国内外の養殖工、養豚、養鶏等の現場で使われています。



消火器リサイクルの技術で 環境保全と新たな価値創出に取り組み

消火薬剤のリサイクル技術の開発

創業当時は、石炭の副産物だった兼定興産株式会社。その後、肥料と工業薬品を製造するようになり、消火薬剤の研究開発を始めたのは、平成20年のこと。リン鉱石の産地である中国・四川地方が大地震に見舞われ、リン酸肥料の価格が高騰した頃です。農家にとっては深刻な問題です。そこで、廃棄予定の消火器の薬剤からリンを回収し、肥料にすることを考えたのですと野下社長。

消火薬剤から有効成分を取り出すには、薬剤に付与されているシリコンコーティングを除去する必要があります。除去方法を確立するまでに3年。併せて、原料収集、製造、販売のリサイクルシステムを確立し、消火薬剤リサイクル肥料が完成します。九州では初の取り組みでした。

全国初の試み、 消火薬剤を再利用した難燃剤

「従来の使用期限が切れた消火器は、処理費用をかけて廃棄するしかありませんでしたが、我々はそれを有価で買い取り、有効利用につなげていまして野下社長。同社の取り組みは、環境保全につながるだけでなく、新たな付加価値と用途を生み出しています。」



九州初、消火器から回収した成分で
リサイクル肥料を製品化



設立 昭和32(1957)年
資本金 1,600万円
本社所在地 久留米市野中町640-1
代表取締役 野下 兼司郎
従業員数 5名
事業内容 消火薬剤・リサイクル肥料の製造販売 工業薬品卸
受賞歴等 平成25年度リン資源リサイクル推進協議会「リン資源リサイクル推進功績者」

公式サイトは
こちら!





「プラセンタ」一筋に半世紀
ヒト胎盤製剤世界トップシェア



期待が高まる「プラセンタ」 大いなる恵みを最先端医療へ

肝臓機能改善に効果
株式会社日本生物製剤は、昭和45年久留米大学医学部の福田憲太郎教授によって開発された「プラセンタ」医薬品を製品化するために設立された会社です。「プラセンタ」は、哺乳類のお腹の中で赤ちゃんを守り、育てる役割を持つ胎盤の成分を抽出し、金井設立以来「プラセンタ」エキス製造に特化した「医薬品・健康食品、化粧品を開発し、製造販売してまいりました。
同社は独自の製法で、胎盤が持つ有用な機能

をできる限り損なわずに「プラセンタ」エキスを抽出し、製品化。医薬品は肝臓病や肝臓機能改善に効果を発揮し、多くの医療現場で使用されています。
「材料が天然由来のための副作用が少なく、安全性が高いことも特徴です」と語るのは大園工場長です。
久留米から世界へ向けて
胎盤の収集から注射薬の製造、そして出荷まで徹底した「レーザー」システムを導入。

厳重なウイルスチェックや品質検査を実施し、安全安心で高品質な製品づくりを行っています。
医薬品を製造する企業として、安全性追求に終わりはありません。設備はもちろん、人員や管理体制まで常に高い意識で向上に取り組んでいます。そのことが、医療現場からの厚い信頼を得ることに繋がっています。
「藤光工場の新設により、生産能力を増強したことで世界各国に向けて供給する体制が整いました。医薬品外品の製造にも力を入れ、これからは次世代の健康に貢献していきます」。

プラセンタサプリメント/LNC プラセンタル スキンケア ホワイトシリーズ



設立 昭和45(1970)年
資本金 8,000万円
本社所在地 東京都渋谷区宮ヶ谷1丁目44番4号
久留米工場 久留米市野中町1493番地
代表取締役 郭 太乙
従業員数 171名
事業内容 医薬品、健康補助食品、化粧品等の製造・販売

公式サイトはこちら!



高い技術と企画・提案力で
超精密金型を製作

設立 平成元(1989)年
資本金 1,000万円
本社所在地 久留米市宮ノ陣町若松1-6
代表取締役 江口 克弘
従業員数 55名
事業内容 金型設計・製作・試作(精密トランスファ成形金型、超精密インジェクション成形金型、プレス金型)

公式サイトはこちら!



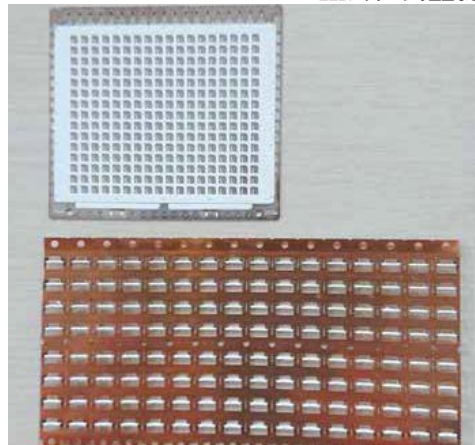
常に新しいチャレンジを 続けることが力に

最先端技術で手がける超精密金型
金型業界の中でも、特に最先端の技術が必要とする超精密金型を手がける株式会社創世エンジニアリング。複雑な金型をミリ単位で正確に成形します。プラスチック樹脂、金属、プレス加工など、あらゆる素材で精緻な加工ができるだけでなく、企画・開発・設計・製作、試打ち、実装まで、お客様の要望に際々まで応える金型のトータルソリューションが可能です。同社は

社強みです。
主力製品は、自動車、電機、電子部品、半導体の金型および部品。現在では、自動車向け駆動用モーターのプレス金型の製作も手がけ、事業を拡大中です。創業30年、着実に実績を伸ばしています。
大手企業とも対等に提案力を発揮
江口社長は、金型メーカー勤務を経て独立し、久留米で会社を設立。高い技術力を武器に、大

手自動車部品メーカーからの絶大な信頼を得て、徐々に企画段階から製品の開発に携わるようになりました。大手企業の企画・設計部門と同等な立場で十分に意思疎通を図ることで、当社から積極的に提案する土壌をつくりました。メーカーにとって必要不可欠な存在になることで、下請け仕事からの脱却を実現。常に新しいチャレンジを続けることにより、技術力や企画力、お客様とのすり合わせ力を向上させることができます。社員一人一人が高い問題意識を持ち、全員参加型の企業経営を目指しています。と江口社長。
今後も、お客様の要望に正確に添えていくだけでなく、むしろお客様の先を行き、要望を超えるような発想、提案をする。これがさらなる成長を目指したいと考えています。

LEDパッケージの金型など





RNAに働きかける、 核酸医薬分野の道を拓く



設立 平成22(2010)年
 資本金 38億7,700万円
 本社所在地 久留米市合川町1488-4
 福岡バイオファクトリー4F
 代表取締役社長 林 宏剛
 従業員数 33名
 事業内容 核酸原薬の製造、核酸医薬開発支援
 受賞歴等 平成29年経済産業省「地域未来牽引企業」

公式サイトは
こちら!



新技術で「ボナック核酸」を開発

次世代医療の確立を目指す

医療のまち・久留米を拠点に

設計図が異常になったDNAから、異常な情報がコピーされたRNAは、体に悪影響をもたらすタンパク質を生成し、遺伝性疾患の他、様々な病気の原因になると言われています。このRNAに直接働きかけ、タンパク質の生成そのものを抑えることで、病気の治療を目指すのが「核酸医療」の分野に新しい道を拓いたのが株式会社ボナックです。これまでのRNA干渉薬は、「二本鎖短鎖RNA」を用

いたものが中心でしたが、当社では、新しい理想と技術力で「一本鎖長鎖RNA」を実現した「ボナック核酸」を開発。日本欧で、特許も取得しています。と話すのは、佐々木チームリーダーで、壊れやすかった二本鎖短鎖RNA(A)に対し「一本鎖長鎖RNA」は高い安定性が特長。また、副作用の低減も期待されています。

核酸医薬品の開発に向けまい進

ボナックは、元製薬会社の研究所内で、退職後も研究の継続を志していた大木会長と、20年続く商社で、核酸を扱った医薬分野への進出を考えていた林社長が創業したベンチャー企業です。「入居している福岡バイオファクトリーが、当社の様々な研究条件を満たし、研究施設として最適だったため久留米市に拠点を決めました。医療のまちである久留米市に拠点を置けたことは、研究開発の推進力になっていきます」と佐々木チームリーダー。

現在は大手企業とライセンス契約や共同研究契約を締結、核酸医薬分野における事業化を目指すボナックの次世代医療に、大きな期待が寄せられています。

見えないものを 価値あるものへ

国内最大の米品種データベース

ビジョンバイオ株式会社は平成9年に環境に関する調査や予測を行う環境アセスメントをメインに行う企業として設立されました。その後、食の安全・安心に消費者の関心が高まる中、九州大学と米の品種判別に係る共同研究を開始。食品会社等からの依頼が急増したことを受けて、事業を環境から食品へとシフトしました。現在は、国内最大の約600種を超える米の

品種情報のデータベースを保有。DNA解析による高精度、スピーディーかつ低価格の米の品種判別を実現し、好評を得ています。その他、小麦・大麦・大豆という主要穀物全ての品種判別、食物アレルギー検査、食品の検査・分析事業等を展開。また、検査に関する技術や試薬の改良、開発も行っています。

顧客自身が使える検査キット

さらには、メーカー向けに検査キットの開

発販売も、食品メーカー等が本キットを使うことで異物混入の簡易検査を行うことが可能です。検査を外注する方法に比べて低コスト、短時間で出来るのがメリットです。また、検査担当者向けに技術セミナーを開催したり、検定試験等の技術支援も行っています。そんな多角的なソリューションを提供できるのも当社の強みです。と営業部の立岩リーダー。

取引先は、国や地方自治体、農業団体や食品メーカーと、多岐に渡ります。「当社のビジョンは、見分ける技術を通じて、お客様の付加価値と生産性向上に寄与し、より良い未来に貢献すること。お客様へ付加価値を提供することが、ひいては社会全体への新しい価値の提供につながると思っています。」

検査キット「お米鑑定団」



「食」の安全・安心を守る 新しい価値を創出する検査分析

設立 平成9(1997)年
 資本金 1,000万円
 本社所在地 久留米市百年公園1-1 久留米リサーチセンタービル1F
 代表取締役社長 塚脇 博夫
 従業員数 12名
 事業内容 検査試薬開発・販売、受託検査サービス、研修・教育 等

公式サイトは
こちら!





独自の塗料開発と施工で
環境と人の暮らしに貢献



「一石五鳥」の環境対応 塗料開発

遮熱・断熱効果のある 特殊塗料を開発

ムライケミカルパック株式会社は、独自開発した特殊塗料の製造と販売だけでなく、施工までを一貫受注する塗料メーカーとしては珍しい存在です。設立直後はタイヤ用特殊塗料を主に手がけていましたが、その後、工場などの屋根に使われるスレート材を還元、強化する塗料を開発、1990年代後半には、アスベスト被害が社会問題化する中で、他に先

駆けて「アスベスト粉じん飛散防止処理塗料」を開発。同時に「アスベスト粉じん飛散防止処理工事」に関して九州初となる建設技術審査証明を取得しました。その後、「当社が施工した企業などから『建物内が涼しくなった』『暖かくなった』」とお声を頂いたことから、断熱効果のある塗料の開発に本格的に着手。現在は高い遮熱・断熱効果を持つ合成樹脂系特殊塗料の製造と施工が中心となっています」と村井社長は語ります。

製品開発の理念は「環境対応」

同社の特殊塗料は、①老朽化したスレートの強度を還元 ②遮熱と断熱効果あり ③省エネ効果 ④表面が汚れにくく、見た目の美しさを長く維持 ⑤アスベストの飛散防止 ⑥低コストの特長があり、いわば「一石五鳥」の製品です。それらの特性を活かし、新築よりも既存建物のメンテナンスに重点を置いて営業を展開しています。

製品開発の基本理念は、「環境対応」であること。「長く手掛けてきた特殊塗料の開発・製造の歴史を強みに、これからも塗料メーカーとして、環境にやさしい社会づくりに貢献してまいります」。

公式サイトはこちら！



設立 昭和42(1967)年
資本金 2億9,300万円
本社所在地 久留米市藤山町696-5
代表取締役 村井 正隆
従業員数 30名
事業内容 特殊塗料製品の製造・施工・販売



創業当初から変わらない
人と自然に優しい無添加石けん



無添加・天然素材！ こだわりの技術を継承

健康や環境配慮の中で支持拡大

まるは油脂化学株式会社は、昭和7年、現社長の曾祖父である林重右衛門氏が創業した林商店から始まりました。学生肌で研究できた重右衛門氏は、肌を優しく使用感のよい石けんづくりに着手。昭和20年にはマルハ化粧品研究所として、固形石けん等を製造、販売しました。戦後、同業者が合成洗剤に転換するなか、「一貫して動植物性油脂と天然成分による無添加石けんの

製造を継続。昭和50年、代目である林九州男氏が始まるのは油脂化学を設立し、現在に至ります。

「消費者の健康志向や環境配慮型の商品が求められる中で、合理化や大量生産とは対極にある伝統的製法を守り、高品質の商品を提供し続けてきたことが、当社の優位性となっています」と林社長は話します。

石けんづくりの相談も受け入れ

原料だけでなく、さまざまな法

などの昔ながらの技術も継承。そうして作られる無添加石けんは、アレルギー肌にも対応できるだけでなく、河川や海に流れても微生物によつて分解され、環境にやさしい製品です。

最近では、こだわりの石けんづくりについての相談が増加。当社では、これまで培ってきた知識や技術を活かして、助言や提案も行っています。他社ではできないことも当社なら解決できるという、セカンドオピニオン的な存在になれば」と林社長。

また、3代目の林眞一氏が石けん塗装ソープ「フィッシュ」という木材の保護剤を開発。赤ちゃんにも安心な塗料で、色が変わらず、木の香りも出るという特長があります。

創業時より続く人と環境に優しい技術は、様々な分野に広がっています。



設立 昭和50(1975)年
資本金 1,050万円
本社所在地 久留米市高野2-8-53
代表取締役 林 竜馬
従業員数 14名
事業内容 無添加石けん類(浴用・台所用・洗濯用・業務用など)の製造・販売

公式サイトはこちら！

